

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		遠野地域福祉事業所　こむこむはうす	公表日					令和7年　2月　27日	
		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	3	3	・学習室を静かな遊びの場にも利用している。 ・ソフトボールの投げ合いやサッカーのような遊び方もできるので、スペースとしては十分だと感じている。	・体の大きい子が活発な運動をするとき狭いと感じることがある。 ・個別に療育できる部屋やクールダウンできる部屋があればよい。 ・長期の休み時は狭く感じる。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、　職員の配置数は適切であるか。	11	1	1	・多めの配置と思うが、基本1対1の子どもの多いので今後も必要。 ・通常の活動であれば、適切だと思われる。	・イベントの時（例：外食）などの時は、補助的に2～3人多い方がいように見受けられる。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	2			・物の整理整頓がいま一つ（事務室） ・大きなガラス窓の為、衝動的におもちゃ等を投げてしまうこども達、またその保護者への配慮としてクッション材などがあるとよいのではないか。 ・冬期給湯設置を願いたい。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	2		・衛生面には配慮していると感じる。 ・常にすぐに清掃できるよう用具が空間内にセッティングしており、迅速に対応している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	1	1		・個室を障がい特性に応じた支援ができる空間にできないだろうか。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA　サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	12	1			・繰り返しの演習の場が欲しい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13				・保護者側からの「特に困っていることはない」の回答にどのように対応すべきか考え、悩むことがある。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13						
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	6				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13			・復命の場がある。 ・機会が確保され、レポート提出で情報を一部シェアしている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1	1		・文言の使い方がスタッフの認識のズレにより、伝わりにくい場合もあるのではないか。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12		1		・アセスメント不足とを感じるケースもある。 ・医療機関や専門家によるアセスメントがどこまで共有されているのか、やや疑問である。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13				・家族支援については特にバックグラウンドが不明なので、こどもの最善の利益を考慮という部分にフォーカスすると、判断が困難。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか　。	13			・十分とは言えないが、近づけるような努力はしている。	・日常業務においては、確認作業は個々に任されているので、その日その日に確認時間があるとよいかもしれない。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1	4				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		1		・スタッフへの負担が重く、個々のスキルや経験に依るところが大きく、内容設定後の実践に結びついているのだろうか。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13						
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13			・個々の得意を生かして色々と工夫されている。			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12		1				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	3	2	・開始前の打ち合わせは行っていないが、必要な連絡を周知する工夫をしている。	・参加できない職員もいる。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	1	2		・参加できない職員もいる。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13			・個別に責任者が内容の確認をしている。	・まだまだ記録不足と思うところはあるが、書くことに慣れたい。		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13			・前向きにとらえ職員間で意見を出している。			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10		3		・地域との関係は低い。		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11		2	・選択できることをやっている。例：おやつ			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		1				

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	3		・学校関係、医療の情報が少ないケースある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13				・学内でトラブルがあり長く待たされる場合は、職員室で情報確認をして、協力して放デイ行きを促してもよいのではないか。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	2	3	・保育園時の情報を得ている児童はいる。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2	5		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3	6		・地域に児童発達センターはない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	8	3		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		5		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13			・記録の共有、聞き取り等の作業で共通理解されていると思う。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	3	1		・家族が真にそれを欲しているのか。精神的負担、プレッシャーにならないとよいが。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13				・個人のスキルや経験には限度があるのではないか。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	12	1			・参加者が少ないので工夫がほしい。 ・親子行事の域にとどまっているのではないか。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		1		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13			・写真を多用し、わかりやすい通信が発行されている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13			・ケース会議等で提示されたものも回収され、十分留意されている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13			・ジェスチャーや表情の機微をキャッチし、対応されている。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	3	1	・おうちフェスを行った。 ・エコキャップ活動が地域への発信の一つになっている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		1	・看護師資格を有するスタッフを主として確認されていると思っている。	・定期的にひとりひとりのデータベースを確認したほうがよい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		4	・指示書は不明だが、保護者からの情報には従っている。	・医師の指示書提示が少ないのではないか。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		2		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1	3		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13			・特に送迎時のヒヤリハットについて共有。検討がなされている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13				・ことばの使い方については、スタッフも更に意識する必要性を感じる。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	12		1		